

男女共同参画情報コーナー



～一人一人が幸せを実感できるまちへ～

【編集】＝「とらいあんぐる」編集員

【問合先】＝本庁企画政策部 ひとみらい政策課
ひとみらい政策グループ
☎(23)5111(内線4741)

「島立ち」に向けて、自ら考え、判断できる力を

島内に高校がないため、甌島の子

昨年12月に里中学校で「子どもたちの男女共同参画学びの広場推進事業」が実施されました。

これは、子どもの頃から男女共同参画への理解を深めてもらうため、教育現場における取り組みを推進する目的で、平成25年度から県が実施しているものです。児童・生徒のワークショップ、教職員セミナー、保護者・地域住民のワークショップを通し、地域全体の人権や男女平等に対する意識の醸成を図ります。

学校は「？」を「！」に変える場所

子どもたちの男女共同参画学びの広場推進事業 in 里中学校

【子どもたちの感想】

私たちは、中学校卒業と同時に親元を離れます。この「島立ち」に向けて、自ら考え、判断できる力を養うために、この事業に里中学校が応募。多くの人々との関わりの中で他者を尊重する心や態度を育み、自分自身を成長させることができる子どもになってほしいとの願いが込められています。この事業を通して、子どもたちが自分自身を振り返り、人権感覚と実践力を高め、それをサポートする教職員・保護者・地域住民の人権感覚の高揚と、学校における指導法の改善についてもヒントを得たいという学校側の思いもありました。

▼考えや気持ちを伝える場合の、自分を主語にして話す「Iメッセージ」と相手を手を主語にする「Youメッセージ」の違いを聞くまでは、「友達なのだから私のことを分かってくれているはず」と思っていました。しかし、自分がはっきり言わなければ自分のことも分かってもらえないことなど、大事なことに気付かされました。

▼私は、自ら手を挙げて発表することができません。いつも心の中で、「間違ったらどうしよう」「合ってるかな」と不安になります。しかし、今日の授業で、失敗することは恥ずかしいことではないということが分かりました。

【教職員の感想】

知識として、頭の中では理解できている「共感」や「認め合い」ですが、実際には自分を取り巻くさまざまな要因に影響されていることに、改めて気付かされました。

【保護者の感想】

最後にみんなが笑顔になり、ほんわかった気分になるワークショップでした。

これまで「人権」という言葉に構えてしまっていたように思いますが、お互いを認め合う普段の活動の中から育てていくものだと感じました。



▲生徒のワークショップ



▲教職員セミナー



▲保護者・地域住民のワークショップ